

☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



ヤマシャクヤク

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
〒540-0026 大阪府中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)

「第20回環境学校」開かれる 「大阪都構想」と「火山と原発」をテーマに

2015年9月23日、第20回記念の「環境学校」を開催しました。故 丸山博・元大阪から公害をなくす会会長の「リーダーには学習の場が必要だ」との一声で始まった合宿が、広く一般会員さ

んにも呼びかけ、時々の課題を環境の視点で掘り下げる「環境学校」に発展し、20回を重ねました。
今年も、住民投票で否決が決まったのになぜ?と疑問だらけの「大阪都構

想と新たな自治体建設」、相次ぐ噴火に「日本はおかしくなってる」と多くの人が危機感を抱く「火山と原発・大阪と日本」の二本立てで、80人が参加しました。

大阪都構想後の課題 一点共闘から新たな自治体建設へ 奈良女子大学 中山 徹氏



■都構想後の大阪をどう考えるか?

大阪維新の会は11月のW選挙で大阪都構想を再び争点にしようとしています。都構想が大阪のまちづくりにおいてなぜだめなのかの理解を広げW選挙で正しい方向に導かないと大変なことになります。都構想否決の勝因は、草の根レベルで反維新での協力がうまく保守勢力と革新の政党レベルでの共闘に繋がったことです。なぜこういう動きに繋がったのかを考えることは今後の地方政治を見ていくうえでも重要です。

■大阪の課題は何か

府民に課せられた最大の課題は、反維新の一点共闘という持続的な協同に発展できるか?一点共闘を軸に新たな自治体建設ができるか?です。将来の人口減少は決してマイナス面だけではありません。人口減少を受け止め、うまく使えば失われた大阪の自然を再生することができます。さらに自然災害に脆弱な大阪を作り変えていけるチャンスでもあります。

今後最も重要なのは、保守、革新問わず門戸を広げ民主的に議論することです。協同を組むにあたっては一致点を見つけることがポイント。これは環境問題、町づくり分野でも同じです。W選挙までに一致点を決めて歩み出せていけるかで大阪の将来が決まります。

(中村 優)

火山と原発、大阪と日本

火山問題研究家 古儀 君男氏



日本列島は、太平洋・北米・フィリピン・ユーラシアの4つのプレートに囲まれています。それゆえ、地震や火山噴火などが頻発します。過去1万年以内に噴火し今も活発に動いている火山を「活火山」といいます。世界には約1,500ヶ所、日本には110あります。日本は、世界の陸地のわずか0.3%に、世界の活火山の7%が集中する「火山大国」

です。

日本地図に火山を示すと、「火山フロント(前線)」と呼ぶ不思議な線があらわれます。これは火山対策に有効です。最近注目されるのが「カルデラ噴火」です。日本では1万年~7000年に1回起こっています。カルデラとは、巨大噴火で火山灰や軽石が一気に噴き出し、マグマに空洞ができ天井部分が陥没してできる直径2km以上の凹地を言います。日本には10カ所あり、うち6個が九州に集中しています。問題は、「阿蘇」、桜島湾を造った「始良(アイラ)」、縄文文化を壊滅させた「鬼界」の3つの大きなカルデラの影響をまろに受ける場所に「川内原発」があることです。

もう一つの大問題は、国の観測・研究体制の脆弱性です。気象庁の火山課には火山専門家がいません。予算はオスプレイ予算の0.5%です。インドネシアでは国立火山調査所に400人の人材を置いています。

(藤永のぶよ)

口永良部島の噴火

2015.05.29

